

## - 2 . 大学院博士課程 (後期) に関する調査

### Survey on Graduate School (Doctoral Courses)

 <b>キーワード</b>	博士課程、進路、意識調査
<b>Key Word</b>	Higher Education ,Graduate School, Ph.D

#### 1 . 調査の目的

現行の科学技術基本計画においては、人材の養成・確保が最重要課題となっている。特に科学技術立国を実現するためには、高度な知識、高い専門性を備えた高資質の人材を多数養成・確保することが重要であり、この点では大学院博士課程の果たすべき役割は大きい。大学院博士課程においては、各大学でマネジメントの改善や教育内容・方法の改善に関する創意工夫を凝らした多様な取り組みが行われているが、国の施策としても教育機能の一層の充実を目指して、大学院教育改革の拡充と進化を図っていく必要がある。

本調査は、このような視点に基づいて、大学院博士課程(後期)の関与者-博士課程(後期)学生、博士課程(後期)修了者、博士課程(後期)担当教員-に対してアンケート調査を実施することにより、博士課程(後期)の実態と関与者の意識などを明らかにし、今後の大学改革の推進と教育の質の向上を図るための基礎資料に資することを目的とする。

#### 2 . 調査研究成果概要

##### (1) 調査の内容

###### 博士課程(後期)学生の進路等に関する意識調査

博士課程(後期)に在学中の大学院生を対象に、アンケートによる意識調査を実施した。主な調査項目として、大学院への進学についての意識、大学院博士課程(後期)修了後の進路についての意識、インターンシップへの意識、大学や企業への要望等を設定し、調査結果の分析を行った。

調査票の発送数は 4,409、回収数は 2,076 であり、回収率は 47.1%であった。

###### 博士課程修了者等の進路等に関する意識調査

調査は、機関(大学、企業、公的研究機関等)を対象に、博士課程(後期)の修了者の在籍状況を把握するための第1段階の調査と、第1段階の調査で明らかになった博士課程(後期)の修了者を対象に意識等を問う第2段階の調査の2本立てで実施した。

機関を対象としたアンケート調査では、主な調査項目として研究者数(男女別人数)、博士課程の修了者数(男女別人数)、博士課程の修了者で、博士の学位の取得者数(男女別人数)、過去3年間に於ける博士課程の修了者の採用者数(男女別人数)等を設定し、調査結果の分析を行った。

調査票の発送数は 11,724、回収数は 3,835 であり、回収率は 32.7%であった。

博士課程(後期)の修了者を対象としたアンケート調査では、主な調査項目として、博士課程(後期)への進学について、博士課程(後期)への進学や在籍中の経験に関して、博士課程(後期)修了後の進路について、インターンシップについて、大学院博士課程(後期)への要望等を設定し、調査結果の分析を行った。

調査票の発送数は 9,906、回収数は 4,380 であり、回収率は 44.2%であった。

###### 教員の進路に関する意識調査

博士課程(後期)を担当する教員を対象に、学生の進路等に関してアンケートによる意識調査を実施した。主な調査項目として、大学院の人材養成目的・教育目的について、大学院の教育内容について、大学院の社会ニーズへの対応について、大学院博士が定額制の進路について、教育研究環境につ

いて等を設定し、調査結果の分析を行った。

調査票の発送数は2,248、回収数は1,165であり、回収率は51.8%であった。

## (2)主な成果

アンケート調査の設問は多岐にわたり全てを紹介することはできないので、ここでは、学生、修了者、教員のそれぞれのアンケートに共通する設問についての調査結果を紹介する。

それぞれのアンケートで博士課程(後期)における教育研究の内容に関して、学生には「身につけたい知識・技能・態度」を、修了者には「身についた知識・技能・態度」を、教員には学生に対して「身につけさせたい知識・技能・態度」を尋ねている。これらの設問に対する結果は以下のとおりである。

表 博士課程(後期)における教育研究内容(%)

	学生:身につけたい能力等	修了者:身についた能力等	教員:身につけさせたい能力等
専門分野の理論的知識	81.9	76.5	85.1
専門分野の方法論や分析方法	80.0	78.2	83.2
専門分野の研究能力	79.4	74.4	83.6
専門分野の先端的な知識	78.6	59.7	71.9
プレゼンテーション能力	67.4	52.0	69.4
専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力	66.5	24.4	57.3
学際的な知識や方法論	66.0	43.3	55.7
複数の専門分野を融合できる知識や方法論	63.6	24.9	43.6
研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力	58.1	17.8	40.7
幅広い学問的興味関心	53.1	38.7	53.8
コミュニケーション能力	51.8	23.7	52.4
幅広い教養的知識	49.5	17.0	30.2
実務に必要な問題解決能力	48.5	17.9	31.8
予想される進路に関する基礎的な知識	47.0	22.0	30.0
予想される進路で必要な基礎的思考方法	46.4	24.2	33.4
実務に必要な知識・スキル	46.1	16.5	25.1
社会人として必要な態度	39.2	13.2	42.7
豊かな人間性・感受性	38.9	12.5	38.9
倫理観	33.8	10.5	41.4
資格取得に必要な知識	20.5	3.0	10.2

学生が身につけたいと考えている能力と博士課程の修了者が身についたと自覚している能力、教員が博士課程で身につけさせたいと考えている能力について、上位にあがっているのは専門分野の知識や研究の方法論などであり、これらについては3者による認識にあまり違いはみられない。

中位にあがっている能力については、学生、教員の意向と修了者の自覚とのあいだに差がみられる。「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」、「複数の専門分野を融合できる知識や方法論」、「研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力」など、応用能力、分野融合能力、プロジェクト・マネジメント能力については、学生や教員の意向に反して、博士課程の教育では身につけることが難しい能力とみることができる。